(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4859306号
(P4859306)

(45)発行日　平成24年1月25日(2012.1.25)　(24)登録日　平成23年11月11日(2011.11.11)

(51)Int.Cl.			F I		
E04H	1/02	(2006.01)	E04H	1/02	
E04H	1/12	(2006.01)	E04H	1/12	301
A47K	1/00	(2006.01)	A47K	1/00	Z

請求項の数 3　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2001-267020 (P2001-267020)
(22)出願日　平成13年9月4日 (2001.9.4)
(65)公開番号　特開2003-82863 (P2003-82863A)
(43)公開日　平成15年3月19日 (2003.3.19)
審査請求日　平成20年9月3日 (2008.9.3)

(73)特許権者　303046244
旭化成ホームズ株式会社
東京都新宿区西新宿一丁目２４番１号
(74)代理人　110000718
特許業務法人中川国際特許事務所
(74)代理人　100095315
弁理士　中川　裕幸
(74)代理人　100120400
弁理士　飛田　高介
(72)発明者　入沢　敦子
東京都新宿区西新宿２丁目３番１号
旭化成ホームズ株式会社
内

審査官　田中　洋行

最終頁に続く

(54)【発明の名称】建物の洗面所

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

洗面台に隣接して収納庫を設けると共に該収納庫の上部で且つ洗面台に直交する方向にカウンターを設け、且つ、窓を有する居室に隣接して設けられる建物の洗面所であって、

前記洗面台の上方に窓を設けると共にカウンターの上方に鏡を設け、

前記窓は、上端と下端の高さ位置を前記隣接する居室に用いる窓と同じに設定された腰高窓が用いられている

ことを特徴とする建物の洗面所。

【請求項２】

洗面台に隣接して収納庫を設けると共に該収納庫の上部で且つ洗面台に直交する方向にカウンターを設け、且つ、窓を有する居室に隣接して設けられる建物の洗面所であって、

前記洗面台の上方に鏡を設けると共にカウンターの上方に窓を設け、

前記窓は、上端と下端の高さ位置を前記隣接する居室に用いる窓と同じに設定された腰高窓が用いられている

ことを特徴とする建物の洗面所。

【請求項３】

前記鏡は、下端の高さを前記カウンターの上面程度として設けられると共に上端の高さを床面から１８００ｍｍ程度として設けられ、

前記窓は、下端の高さを前記鏡と同程度とし、上端の高さを前記鏡の上端よりも高い位置として設けられている

ことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の建物の洗面所。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、洗面所に関し、特に、浴室と連続して設けられて比較的狭い空間として制限されているにも関わらず、広い窓を確保すると共に複数の出入口を確保した建物の洗面所に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】

住宅では、浴室に連続して、脱衣所と洗濯室を兼ねた洗面所が設けられるのが一般的である。このような洗面所では洗面ユニットと洗濯機が設けられており、これらの他に、洗濯物を収容する容器や乾燥機，吊り戸棚等が夫々壁面に沿って配置される。一般的な住宅に於いて、洗面所の面積はさほど広いものではなく、約1.8m×約1.8m又は２ｍ×２ｍ程度であり、洗面所及び洗濯室として利用し得る最低限の広さであるといえる。

【０００３】

洗面ユニットは専門メーカーによって生産された所謂洗面化粧台を用いており、この洗面化粧台を建物側に設けた給水栓，排水孔及び電源と接続することで利用し得るように構成されている。この洗面化粧台は、単体で洗面及び化粧機能の全てを満足し得るように構成されており、洗面ボウルを中心として、正面に半身用の鏡が設けられると共に該鏡の上部に収納庫が設けられ、更に、洗面ボウルの下に収納庫が設けられている。

【０００４】

洗面化粧台や洗濯機の寸法は夫々のメーカーが独自に設定しており、これらのカタログの中から目的の洗面所の寸法に合わせて最適な寸法と機能を有するものを選択して利用している。このため、最適なものとして選択した洗面化粧台及び洗濯機を設置したとしても、洗面所のスペースの全てを有効に利用し得るというものでもない。

【０００５】

洗面所には、浴室に続く扉と廊下や他の部屋に続く扉の少なくとも２つの扉が設けられており、これらの扉を利用して洗面所への出入り、及び浴室への出入りが行なわれる。特に、最近では家事を合理的に進めるために、キッチン等から直接洗面所に出入りし得るように、三方の壁に夫々扉が設けられることもある。即ち、洗面所を構成する壁面のうち、２つ或いは３つが浴室，廊下或いはキッチンに連続しており、残りの壁面に窓が形成されている。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

上記の如く、住宅の洗面所は限られたスペースを利用して洗面化粧台や洗濯機が設置されており、且つ壁面には少なくとも２つの出入口が設けられるため、利用し得る壁面の面積も小さくなっている。また洗面化粧台は洗面ボウルの正面に鏡が置かれるようになっているため、該洗面化粧台を配置することによって露出する壁面の面積が小さくなってしまい、大きい窓を形成することが出来ないという問題や、大きい窓を形成しようとした場合、洗面化粧台の配置方向に制限があるという問題が生じる。

【０００７】

上記問題は、洗面所に隣接して設けられる居室の壁面に形成された窓と、洗面所の窓とが異なる大きさになり、建物の外観が統一のとれない意匠になってしまうという問題を派生している。

【０００８】

また洗面化粧台，洗濯機が異なるメーカーによって提供されるものであるため、洗面所としてのスペースを合理的に利用するという思想はなく、夫々の投影面の形状は略四角形である。このため、寸法的に且つ機能的に合理的なものを選択しても、洗面所に於けるデッドスペースの発生が多々ある。

【０００９】

洗面所の３つの壁面に夫々出入口を形成するという要求がある場合、洗面化粧台は外壁側に向けて配置せざるを得ず、このため、充分に大きい窓を形成することが出来ないという問題も生じる。この場合、洗面化粧台の上方に欄間状の窓を形成し、或いは洗濯機の上方に小窓を形成することがあるが、充分な採光や通風を確保することが出来ないという問題が生じ、且つ建物の外観が統一のとれない意匠となって著しく美観を損なうという問題を派生する。

【００１０】

本発明の目的は、洗面台の配置位置や配置方向の如何に関わらず洗面所の内部を合理的に配置し、且つ出入口が３つ形成されるような場合であっても、大きな窓を形成することが出来る建物の洗面所を提供することにある。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために本発明に係る建物の洗面所は、洗面台に隣接して収納庫を設けると共に該収納庫の上部で且つ洗面台に直交する方向にカウンターを設け、且つ、窓を有する居室に隣接して設けられる建物の洗面所であって、前記洗面台の上方に窓を設けると共にカウンターの上方に鏡を設け、前記窓は、上端と下端の高さ位置を前記隣接する居室に用いる窓と同じに設定された腰高窓が用いられているものである。

【００１２】

また本発明に係る他の洗面所は、洗面台に隣接して収納庫を設けると共に該収納庫の上部で且つ洗面台に直交する方向にカウンターを設け、且つ、窓を有する居室に隣接して設けられる建物の洗面所であって、前記洗面台の上方に鏡を設けると共にカウンターの上方に窓を設け、前記窓は、上端と下端の高さ位置を前記隣接する居室に用いる窓と同じに設定された腰高窓が用いられているものである。

【００１３】

上記何れかの洗面所では、洗面台とカウンターを直交する方向に配置し、洗面台の配置方向に応じて、該洗面台の上方に窓或いは鏡を設け、カウンターの上方には洗面台の上方に窓を設けたときには鏡を、また洗面台の上方に鏡を設けたときには窓を設けることで、洗面台の配置方向の如何に関わらず壁面を有効に利用して、外壁面側に大きな窓を形成すると共に、外壁面と直交する方向の壁面に鏡を設けることが出来る。

【００１４】

上記何れかの洗面所に於いて、前記鏡は、下端の高さを前記カウンターの上面程度として設けられると共に上端の高さを床面から１８００ｍｍ程度として設けられ、前記窓は、下端の高さを前記鏡と同程度とし、上端の高さを前記鏡の上端よりも高い位置として設けられていることが好ましい。

【００１５】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る洗面所の好ましい実施形態について説明する。

【００１６】

本発明に係る洗面所は、限られたスペースと壁面を有効に利用して外壁の壁面に大きな窓を形成することを可能とし、且つ複数の壁面（最大３つの壁面）に夫々出入口を形成し得るようにしたものである。このため、洗面所に対する採光を確保すると共に通風を確保し、且つ洗面所を介して浴室，廊下或いは居室，キッチンとの通行を実現することが可能となる。

【００１７】

本発明を適用する洗面所は少なくとも１つの外壁を有しており、該外壁の壁面に大きな窓を設けることによって、採光を確保すると共に通風を確保することが可能である。特に、前記窓を洗面所に隣接する居室の窓と同じ高さとすることで、建物の美観を向上することが可能である。

【００１８】

本発明の洗面所は面積を特に限定するものではないが、1.8ｍ×1.8ｍ或いは２ｍ×２ｍ

程度の面積を対象とした場合に極めて有効である。従って、本発明では、前記面積以上の面積を持った洗面所に適用することが可能である。

【００１９】

本発明に於いて、洗面台は洗面ボウルを有して構成される。即ち、洗面台としては洗面ボウルがあれば良く、該洗面ボウルの下部に収納庫が形成されることが好ましい。しかし、従来の洗面化粧台のように、洗面ボウルと鏡や上部収納庫が一体的に構成しようとするものではない。

【００２０】

洗面台に隣接して設けた収納庫は洗面台とは異なる構造体として構成されており、洗面台の左右何れの側面であっても隣接して設置することが可能なように構成されている。また収納庫の上面のレベルは洗面台の上面と略等しい。

【００２１】

収納庫の幅寸法は特に限定するものではないが、カウンターの幅寸法と同じであることが好ましい。更に、洗面台と該洗面台の側面に隣接させて設けた収納庫との横方向の寸法は、洗面台に並べて洗濯機を設置し得る値であることが必要である。

【００２２】

収納庫の構造を引出型とするか観音開き型にするかは特に限定するものではないが、洗面所に於ける収納庫の設置位置は２つの壁面が交差する部位となり、且つ可及的に壁面に接近させることから、観音開き型では扉の開放が困難になることがあり、引出型であることが好ましい。

【００２３】

上記の如き寸法を持った洗面台と収納庫では、これらを互いに隣接させると共に、収納庫を壁面に接近させて設置したとき、洗面台の反対側（収納庫を隣接させていない側）には洗濯機を設置するためのスペースを確保することが可能である。

【００２４】

カウンターは化粧用具や化粧品或いはシェーバーやドライヤー等の器具類を置くためのものであり、洗面台の奥行き寸法よりも大きい予め設定された寸法を持って洗面台に対し直交する方向に配置されている。このカウンターは、予め設定された長さと収納庫の幅寸法と略等しい奥行き寸法（約200㎜～約300㎜）を持った板状の部材によって形成されており、一方側の端部が収納庫の上部に載置されて固定されて一体化し、他方側の端部は下方に設けた収納庫に支持され、或いは片持ち梁状の自由端として構成される。

【００２５】

上記の如く、収納庫とカウンターを一体化することによってカウンターユニットを構成している。特に、収納庫を引出型とすることによって、カウンターユニットは、洗面台の左右何れの側面に設置した場合であっても、不便を感じることなく使用することが可能である。

【００２６】

カウンターの長さは洗面所の寸法や壁面に形成する出入口の有無等に対応させて予め設定されている。例えば、１つの壁面の全面にわたってカウンターを設ける場合の長さは約1.8m又は２ｍ（内壁面の間隔に対応させた寸法、建物に設定されたモジュール寸法に応じる。以下代表して「１８カウンター」という）に、またカウンターを設ける壁面に出入口を形成する場合の長さは約0.9m又は１ｍ（内壁面の間隔の約半分、以下代表して「０９カウンター」という）に設定することが好ましい。

【００２７】

カウンターの長さは上記各寸法に限定するものではなく、約1.2m，約1.5m等の寸法で適宜設定することが可能である。また洗面台の奥行き寸法が約 450㎜～600㎜程度であることから、例えば0.6m～0.9mの長さであっても、カウンターとしての機能を発揮することが可能である。

【００２８】

特に、壁面に出入口を設けることを目的としてカウンターを短くすることが多いため、

人の出入りの際に邪魔にならないように、カウンターとしての機能を損なわない範囲で短くすることが好ましい場合もある。更に、カウンターの自由端は必ずしも壁面に対して直角である必要はなく、人の出入りの邪魔にならないように斜めに形成しておくことも好ましい。

【００２９】

上記の如く、１８カウンター或いは０９カウンターを選択的に用いることによって、一方側の壁面の全幅にわたって有効に利用することが可能となる。尚、１８カウンターを形成した場合、該１８カウンターに於ける洗面台から離隔した端部の下部に収納庫を設けることによって該１８カウンターを支持することが可能であり、０９カウンターを形成した場合、該０９カウンターを片持ち梁状とすることが可能である。

【００３０】

上記の如く構成されたカウンターは、上面が洗面台の上面と略同一のレベルを有しており、且つ板状の部材によって構成されることから、該カウンターの上部の壁面は全面にわたって露出していることになる。

【００３１】

洗面台の側面に隣接させてカウンターユニットを設置したとき、洗面台とカウンターは互いに直交して配置される。前記洗面台及びカウンターの何れかが、少なくとも１つの外壁の壁面に向けて配置される。従って、洗面台，カウンターが外壁或いは外壁以外の壁面の何れに面した場合であっても、洗面台及びカウンターの上部の壁面が充分に露出することから、外壁の壁面も充分に露出することになり、これらの露出した壁面を有効に利用することが可能である。

【００３２】

特に、洗面台に隣接させるカウンターユニットを洗面台に対して単独で移動し得る構造体とすることで、カウンターユニットを洗面台の左右何れの側面であっても設置することが可能となり、洗面所に於ける外壁と出入口との位置関係の変更に対し円滑に対応することが可能である。

【００３３】

更に、洗面台とカウンターユニットを組み合わせたときの投影面の形状はＬ字型となるため、２つの壁面に対向する床面を有効に利用して洗濯機を加えたレイアウトを合理的に実現することが可能となる。このため、デッドスペースを減少させて狭い洗面所の面積を活用することが可能である。

【００３４】

また、洗面台とカウンターユニットは、互いに細部のデザインや色調等を統一しておき、目的の洗面所のレイアウトに対応して、例えば洗面台を基準として、異なる長さの中から選択したカウンターユニットを組み合わせたとしても、全体のデザイン，色調が統一のとれたものとして構成されることが好ましい。

【００３５】

このため、洗面台と、カウンターユニットは、互いに異なる構造体として構成されるものの、デザイン，色調，寸法が統一のある組合せ体として構成されている。

【００３６】

洗面所に於ける外壁には、採光と通風を確保し得る大きい窓を設けることが好ましい。このため、上記の如く、外壁面に面して洗面台，カウンターを設けた場合であっても、これらの上部の壁面が露出することで、下側が洗面台の上面のレベルよりも高く且つ上側が天井面までの間の壁面を利用して窓を構成することが可能である。このような窓として特に限定するものではないが、幅が0.9m程度の所謂腰高窓を設けることが可能である。このような窓では、一般の居室に取り付けられる窓（腰高窓）と高さが等しくなり外観上好ましい。

【００３７】

上記の如く、外壁に一般の居室に取り付けられる腰高窓と同等の大窓を設けたとき、この大窓を塞ぐようなものが存在しないため、充分な採光を確保することが可能となり、且

つ充分な通風を確保することが可能となる。

【００３８】

洗面台の上部の壁面に設ける部材は、該壁面が外壁であるか内壁であるかに応じて設定される。即ち、洗面台が外壁の壁面に面している場合、この壁面には窓が設けられ、洗面台が内壁の壁面に面している場合、この壁面には鏡が設けられる。特に、洗面所が２つの外壁を有する場合であって、洗面台及びカウンターが夫々外壁の壁面に面している場合、洗面台の上部に窓を設けるか、鏡を設けるかは限定するものではない。

【００３９】

カウンターの上部の壁面に設ける部材は、洗面台の場合と同様に壁面が外壁であるか内壁であるかに応じて設定される。即ち、カウンターが外壁の壁面に面している場合、この壁面には窓が設けられ、カウンターが内壁の壁面に面している場合、この壁面には鏡が設けられる。従って、洗面所が２つの外壁を有する場合であって、洗面台及びカウンターが夫々外壁の壁面に面している場合、カウンターの上部に窓を設けるか、鏡を設けるかは限定するものではない。

【００４０】

何れにしても、洗面台の上部の壁面と、カウンターの上部の壁面に同じ部材が設けられることはなく、窓と鏡の何れかが洗面台の上部に設けられたとき、カウンターの上部には窓，鏡の残った方が設けられる。

【００４１】

洗面台又はカウンターの上部に設けられる鏡は、少なくとも上半身が写るサイズであることが好ましい。このように上半身を写す鏡は幅寸法が約500㎜～750㎜、上端の高さが約1800㎜程度で下端が洗面台或いはカウンターの上面程度（750㎜程度）であることが好ましい。このような鏡を洗面台或いはカウンターの上部に設けることによって、化粧や身だしなみを整えることが可能となる。

【００４２】

またカウンターの上部であって、該カウンターの上面から上方に離隔した位置に薄型の収納庫（薄収納）を設けることが好ましい。このような薄収納を設けることによって、化粧品や化粧用具、或いは電気器具類を収納することが可能である。この薄収納の寸法は、幅方向がカウンターの長さと等しいか短く、且つ厚さ寸法がカウンターの幅寸法と等しいか小さいことが好ましい。

【００４３】

上記の如く構成された洗面所では、洗面台とカウンターの配置に対し、夫々の上部に設ける窓と鏡との組み合わせによって２つのパターンが形成される。またカウンターを、０９カウンターとするか、１８カウンターとするかによって２つのパターンが形成される。更に、洗面台とカウンターユニットとの組み合わせの勝手違い（カウンターユニットを洗面台の左側に配置するか、右側に配置するか）が形成される。

【００４４】

従って、予め洗面所として、洗面台，カウンターと窓，鏡の組み合わせによるパターン、カウンターの長さの違いによるパターンを設定しておくことで、目的の住宅に於ける洗面所を設計する際に、出入口の位置や外壁の位置に応じて前記何れかのパターンを選択して設計することが可能である。

【００４５】

また選択したパターンに於ける出入口の位置と、目的の洗面所に於ける出入口の位置が異なる場合、選択したパターンの勝手違いを設計することで、対応することが可能である。

【００４６】

次に、上記洗面所の好ましい実施例について図を用いて説明する。図１は第１実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。図２は第１実施例に係る洗面所の構成を屋内側の壁と出入口を除いた状態で説明する図である。図３は第２実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。図４は第３実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。

【００４７】
先ず、図１，図２により第１実施例に係る洗面所の構成について説明する。尚、図１（ａ）は洗面所Ａの平面図であり、同図（ｂ）は洗面台を正面に見た斜視図である。
【００４８】
図に於いて、洗面所Ａは、1.8m×1.8mの略正方形の床面を有しており、外壁１に対向する位置に廊下への出入口２が形成され、外壁１と直交する壁に浴室（ユニットバス、ＵＢ）への出入口３が形成されている。この洗面所Ａのレイアウトはパターンとして設定される。
【００４９】
外壁１に面して洗面台４が配置され、該洗面台４の側面であって出入口３が形成された壁と対向する壁５側にカウンターユニット６の収納庫６ａが隣接して配置されている。また洗面台４の収納庫６ａを配置した側面とは反対側の側面に洗濯機７が配置されている。
【００５０】
洗面台４は洗面ボウル４ａと、該洗面ボウル４ａの下部に形成された収納部４ｂとを有して構成されている。洗面台４は、幅寸法（左右方向の寸法）が750㎜～900㎜の範囲に形成され、奥行き寸法は450㎜～600㎜の範囲に、高さは750㎜程度に形成されている。またカウンターユニット６を構成する収納庫６ａの幅寸法は約200㎜～300㎜程度で形成されている。
【００５１】
カウンターユニット６を構成するカウンター６ｂは、長さが洗面所Ａの内寸法と略等しい1.8mを持った１８カウンターとして形成されている。従って、壁５には全面にわたってカウンター６ｂが設けられることになる。またカウンター６ｂの奥行き寸法は収納庫６ａの幅寸法と等しく200㎜～300㎜程度に設定され、上面の高さは洗面台４の高さと等しい750㎜程度に設定されている。
【００５２】
カウンター６ｂの端部であって、収納庫６ａと対向する位置には下部収納庫６ｃが設けられており、カウンター６ｂの端部は下部収納庫６ｃに載置されて支持されている。また収納庫６ａと下部収納庫６ｃとの間には収納庫６ａの引出を操作するのに充分な空間６ｄが設けられており、この空間６ｄを利用してごみ箱や折り畳みイス等を収容することが可能である。
【００５３】
カウンター６ｂの上方であって、該カウンター６ｂから離隔した位置に２つの薄収納８が設けられている。この薄収納８は、夫々カウンター６ｂの両端部分に対応する位置に設けられており、一方はカウンターユニット６を構成する収納庫６ａの上方に、他方は下部収納庫６ｃの上方に配置されている。
【００５４】
上記薄収納８は、前述したように、厚さ（奥行き寸法）がカウンター６ｂの幅寸法と略等しいか或いは小さく形成されており、これにより、カウンターユニット６の前に立った人の邪魔にならないように構成されている。
【００５５】
外壁１の壁面であって、洗面台４の上部に大窓９が設けられている。この大窓９は幅寸法が900㎜の腰高窓として、特に、居室に用いる窓と同一の腰高窓として構成されており、建物の外観意匠の統一をはかると共に、充分な採光を確保すると共に通風を確保することが可能である。また壁５であってカウンター６ｂの上部には上半身を写すことが可能な鏡10が設けられている。この鏡10は、カウンター６ｂの上部に設けた薄収納８の間に設けられている。
【００５６】
上記の如く構成された洗面所Ａでは、外壁１に大窓９が形成され、該外壁１と交差する方向の壁５の全面にカウンターユニット６が設けられている。また外壁１と対向する壁及び壁５と対向する壁は、何れも洗濯機７やカウンターユニット６の一部が対向するものの

、全面にわたって対向するものではなく、従って、これらの壁に廊下への出入口２，浴室への出入口３を構成することが可能である。また浴室の設置方向が図１の反対側に変更された場合、洗面台４を基準として右側にカウンターユニット６を設ける所謂勝手違いのレイアウトを設計することで対応することが可能である。

【００５７】

尚、図に於いて11は、洗濯機７の上部に設けた収納、或いは乾燥機等の機能備品である。

【００５８】

次に、図３により第２実施例に係る洗面所Ｂの構成について説明する。尚、図３（ａ）は平面図、（ｂ）は洗面台を正面に見た斜視図である。また前述の洗面所Ａと同一の部分及び同一の機能を有する部分には同一の符号を付して説明を省略する。

【００５９】

図に於いて、洗面所Ｂは、外壁１に向かって１８カウンターを有するカウンターユニット６が設けられており、該外壁１の全面にわたってカウンター６ｂが配置されている。このため、洗面台４はカウンターユニット６と直交する方向である壁５に対向して配置されている。また外壁１に対向して廊下への出入口２が形成され、壁５に対向して浴室への出入口３が形成されている。このような洗面所Ｂのレイアウトはパターンとして設定される。

【００６０】

洗面所Ｂでは、外壁１に対向して設けたカウンター６ｂの上方に大窓９が形成されており、壁５に対向して設けた洗面台４の上部に鏡10が設けられている。

【００６１】

上記の如く構成された洗面所Ｂであっても、３方向の壁に出入口２，３と大窓９が形成されることとなり、充分な採光を確保することが可能であり、且つ図３（ａ）に矢印で示すように充分な通風を確保することが可能である。また浴室の設置方向が図３の反対側に変更された場合、カウンターユニット６を基準として右側に洗面台４を設ける所謂勝手違いのレイアウトを設計することで対応することが可能である。

【００６２】

次に、図４により第３実施例に係る洗面所Ｃの構成について説明する。尚、図４（ａ）は平面図、（ｂ）は斜視図である。また前述の洗面所Ａと同一の部分及び同一の機能を有する部分には同一の符号を付して説明を省略する。

【００６３】

図に於いて、洗面所Ｃは、外壁１に面して洗面台４が配置され、該洗面台４に向かって左側の壁12側にカウンターユニット13の収納庫13ａが隣接して配置されている。また洗面台４の収納庫13ａを配置した側面とは反対側の側面に洗濯機７が配置されている。

【００６４】

カウンターユニット13を構成するカウンター13ｂは、長さが洗面所Ｃの内寸法の略半分の寸法と略等しい0.9ｍを持った０９カウンターとして、即ち、壁12に出入口14を形成する際に邪魔になることのないカウンターとして形成されている。従って、壁12には、外壁１側から略半分の位置までカウンター13ｂが設けられることになる。カウンター13ｂの端部であって、収納庫13ａからの突出部分は片持ち梁状に形成されている。

【００６５】

このため、壁12にはカウンター13ｂが対向することなく全面が露出した壁面が形成され、この部位に出入口14が形成されている。この出入口14は、居室空間やキッチン等に連続しており、これらの空間から出入口14を介して直接洗面所Ｃに出入りすることが可能である。

【００６６】

カウンター13ｂの上方であって、該カウンター13ｂから離隔した位置に１つの薄収納８が設けられている。この薄収納８は、カウンター13ｂの洗面台４側の端部に設けられている。

【００６７】
外壁１の壁面であって、洗面台４の上部に大窓９が設けられており、該大窓９によって充分な採光を確保すると共に、図４（ａ）に矢印で示すように充分な通風を確保することが可能である。また壁12であってカウンター13ｂの上部には上半身を写すことが可能な鏡10が設けられている。
【００６８】
上記の如く構成された洗面所Ｃでは、外壁１に大窓９が形成され、該外壁１と交差する方向の壁12の略半分の壁面に対向してカウンターユニット13が設けられ、該カウンターユニット13が対向することのない部位に出入口14が形成されている。また外壁１と対向する壁及び壁12と対向する壁には、廊下への出入口２，浴室への出入口３を構成することが可能である。
【００６９】
上記の如く、洗面所Ｃでは、カウンターユニット13を構成するカウンターを０９カウンターとすることによって、洗面所Ｃを構成する４つの壁面に夫々大きな開口部（外壁１に対する大窓９、他の３つの壁に対する出入口２，３，14）を形成することが可能となり、該洗面所Ｃを中継して廊下，浴室，居室或いはキッチンに通行することが可能となる。従って使い勝手の良い洗面所Ｃを構成することが可能であり、且つ充分な採光と通風を確保することが可能である。
【００７０】
また洗面所Ｃに於いて、浴室の設置方向が図４の反対側に変更された場合、洗面台４を基準として右側にカウンターユニット13を設ける所謂勝手違いのレイアウトを設計することで対応することが可能である。
【００７１】
住宅の設計に伴って洗面所の設計を行なう場合、上記パターンＡ～Ｃを予め設定しておき、目的の洗面所に於ける外壁１の方向と、外壁１に対する廊下及び浴室の方向、更に、キッチンや居室であって直接洗面所に出入りする必要のある空間の有無と方向を夫々確認することで、目的の洗面所をパターンＡ～Ｃ、或いはパターンＡ～Ｃの勝手違いの何れかに当てはめることで、目的の洗面所のパターンを選択することが可能である。
【００７２】
特に、洗面所の採光と通風を確保することを目的とした場合、従来の洗面化粧台を利用しても、特定のレイアウト（洗面化粧台が内壁面に対向すると共に外壁に大窓を形成し得るレイアウト、例えば特定パターン）であれば実現することが可能である。このため、上記パターンＡ～Ｃに前記特定パターンを加えた複数のパターンＡ～Ｃ，特定パターンを設定しておき、これらのパターンの中から目的の洗面所に最適なパターンを選択することで、より選択肢の広い設計を行なうことが可能である。
【００７３】
このため、パターンＡ～Ｃ及び特定パターンの中から選択されたパターンをそのまま、或いは勝手違いを設定することで、洗面所の設計を行なうことが可能である。
【００７４】
【発明の効果】
以上詳細に説明したように本発明に係る洗面所では、洗面台とカウンターを直交する方向に配置し、洗面台の配置方向に応じて、該洗面台の上方に窓或いは鏡を設け、カウンターの上方には洗面台の上方に窓を設けたときには鏡を、また洗面台の上方に鏡を設けたときには窓を設けることで、洗面台の配置方向の如何に関わらず壁面を有効に利用して、外壁面側に大きな窓を形成すると共に、外壁面と直交する方向の壁面に鏡を設けることが出来る。
【００７５】
また大窓の下方に洗面台を設け、この洗面台と直交する方向に該洗面台の上面と略連続した上面を有し、予め設定された長さ（壁面の間隔の約半分、或いはより短い長さ、例えば約900㎜）にカウンターを設けると共に該カウンターの上方に半身用の鏡を設けたので

、カウンターに面した壁面は前記寸法の残りの幅で露出することとなり、露出した壁面に出入口を形成することが出来る。このため、洗面所を構成する４つの壁面のうち、外壁面には大窓を形成し、他の３つの壁面に夫々出入口を形成してこれらを、浴室との出入口，廊下との出入口，居室或いはキッチンとの出入口とすることが出来る。

【００７６】

上記洗面所では、洗面台とカウンターとが直交方向に配置されるため、２つの壁面に対向する床面を有効に利用することが出来る。このため、洗濯機を加えて合理的なレイアウトを実現することが出来、洗面所の床面を有効に利用してデッドスペースを減少させることが出来る。

【００７７】

上記各洗面所では、外壁面に大窓を形成することが出来るため、該窓のサイズを隣接する居室に設けた窓のサイズと同一とすることによって、統一のとれた外観を持った建物とすることが出来る。特に、洗面所に大窓が形成されるため、充分な採光と通風を確保することが出来る。

【００７８】

また、洗面台の配置位置と、洗面台と窓或いは鏡との組み合わせからなるパターンと、カウンターの長さを変化させたパターンを含む複数のパターンを設定しておき、目的の住宅に於ける洗面所に対する出入口の数と方向、外壁の方向等の条件が設定されたとき、前記パターンの中から最適なものを選択し、選択したパターンに基づいて洗面所の設計を行なうことが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図１】　第１実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。

【図２】　第１実施例に係る洗面所の構成を屋内側の壁と出入口を除いた状態で説明する図である。

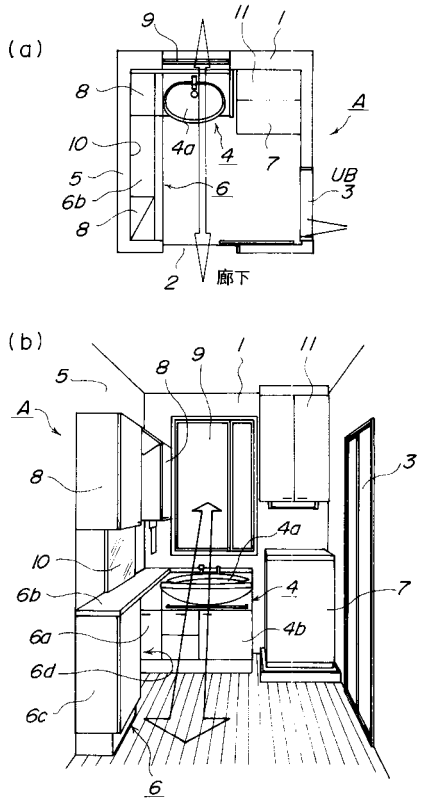
【図３】　第２実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。

【図４】　第３実施例に係る洗面所の構成を説明する図である。

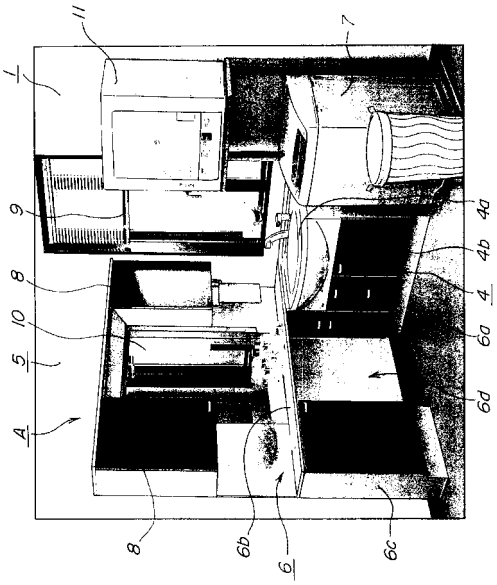
【符号の説明】

Ａ～Ｃ	洗面所
１	外壁
２，３，14	出入口
４	洗面台
４ａ	洗面ボウル
４ｂ	収納部
５，12	壁
６，13	カウンターユニット
６ａ，13ａ	収納庫
６ｂ，13ｂ	カウンター
６ｃ	下部収納庫
６ｄ	空間
７	洗濯機
８	薄収納
９	大窓
10	鏡
11	機能備品

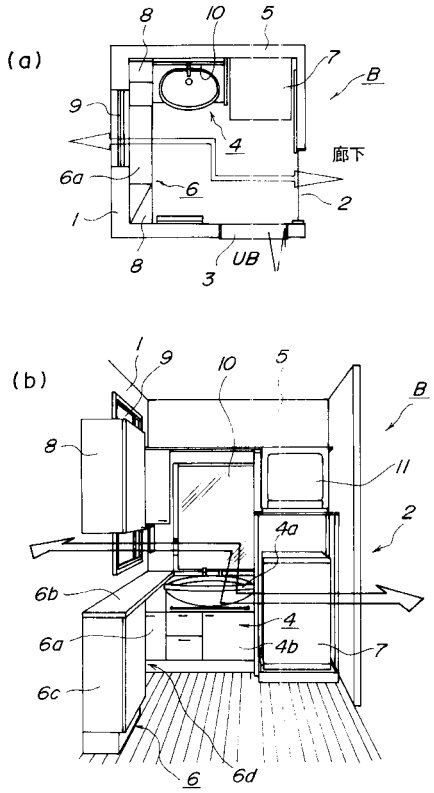
【図１】



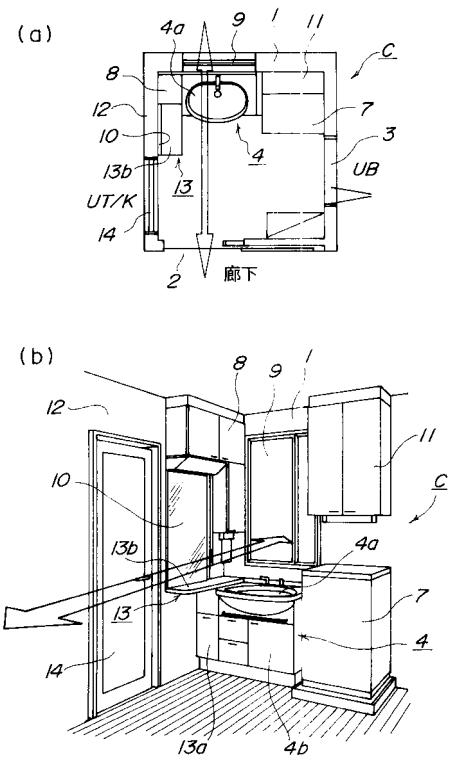
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０５－１５４０３０（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－２６０７２９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
E04H 1/02
E04H 1/12
A47K 1/00